



しきみの種

富士地域が全国でも有数の産地であるしきみは、仏前や墓前に供えられ、また乾燥した葉は線香や抹香に使用されています。富士山麓の標高200〜400メートルに位置し、水はけの良い黒土を利用して、霧の発生や霜が降りにくいというしきみに最適な条件の揃った大淵・北部地区を中心に昭和30年代ごろから栽培されてきました。

「今を一生懸命生きている」と話す高橋さん(56)は、年間で6〜7万本を出荷しています。17年間勤めた会社を辞めてから、農業生活20年が過ぎました。お茶栽培の合間に出来る複合作物としてしきみも栽培。自家採取した種子を撒



いてから3年かけて育成管理し、1年ごとに違う場所へ大きさを揃えて植え替え、樹姿を整えボリューム感を出すための芽摘みを年間10万本行います。根付きのしきみは、日持ちが良く、葉が深緑色で光沢があり、美しい形が特徴です。高橋さんが会長を務めるJA富士市しきみ部会は、現在39人で活動しています。手作業で1本ずつ形を整え箱詰めにして、「富士しきみ」として関西



↑出荷の風景(左は大淵支店営農経済係 しきみ部会担当/遠藤優)

圏を中心に北海道、東京、名古屋など全国に販売しています。毎年行う共進会では、審査員として県内外の市場関係者を招き、品質の良さを伝えていきます。そして、生産者同士が圃場を視察し合い、統一した高品質のしきみ作りに励んでいます。

